

**目的** 日本人女子大生は自己の身体に対する満足度が低く、高身長、豊かな胸、細いウエストに対する願望が強いことがわかっている<sup>1)</sup>。そして、このような若い女性の心理をおおるよう、バストやヒップの整容効果を強調する下着が市場に出回っている。本研究では、女子大生が自らの理想的身体像に近づく手段として、ブラジャーの整容効果にどの程度の期待を寄せ、購入・着用しているのか、また、それらの体型補正効果が実際にはどの程度であるかについて検討した。

**方法** まず、(1)ブラジャーの選択、購入、着用に関する実態調査として、平成6年10月、女子大生300名を対象に質問紙によるアンケートを行った。この結果を昭和63年の調査結果と比較して考察した。次に、(2)平成6年11月、女子大生37名を被検者として、市販のブラジャー2種（ワイヤー入り、バストアップ）を着用した場合の補正効果を、三次元曲面形状計測装置（VOXELAN）により計測し、検討した。ほぼ裸体とみなせる薄手キャミソール着用時を基準とし、「乳頭間幅」および「頸窩点から乳頭位高までの長さ」、すなわち、正面からみた乳頭の位置がどの位内側に、高く移動するかを計測し、補正効果を検討した。

**結果** 1. 平成6年の調査結果は昭和63年のそれより、Aカップ着用者が約40%減少し、反対にCおよびDカップ着用者が約30%増加している。バストサイズに満足していない人にバストアップブラジャー着用者が多いが、バストアップブラジャー着用後の効果は自分ではわからないと答える人が50%を超える。2. キャミソール着用時と比べて、ブラジャー着用時では乳頭間幅は狭くなり、頸窩点から乳頭位高までの長さは短くなる。